

# 平成29年度 学校自己評価システムシート（県立浦和高等学校 定時制課程）

目指す学校像	社会的自立を目指し、未来を拓く青年の育成
--------	----------------------

重点目標	1 地域の多様な人材との連携により、自立支援や社会の一員としての自覚と責任、主体的行動力を育成する。 2 生徒個々に対応した学習活動を展開し、基礎学力の定着と主体的な学習意欲を高める。 3 キャリア教育・進路指導を組織的に取組み、進路意識を確立させ進路決定に導く。 4 組織的かつ計画的に、日々の教育活動を発信し、開かれた学校づくりを進める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえた評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局（教職員）	8名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価				
年 度 目 標				年 度 評 価（3月2日現在）					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>・毎日の登校・巡回指導や生徒会中心の生徒行事の運営、さらに食育指導は、生徒の公共心を養うことに高い効果を表している。しかし社会に貢献できる主体的な行動力という点ではまだ十分とは言えない。今後さらに意識向上のための工夫が課題である。</p>	<p>・公共心を持ち、社会の一員としての自覚と自ら行動する積極性を身に付けることを目的に、多様な教育活動を充実させる。</p>	<p>①地域の多様な人材を活用し、コミュニケーション能力や人間関係の構築            ②各種学校行事において、生徒の主体的な活動場を増やす。            ③給食指導等を通して「食育」指導を充実、食の大切さ、命の重さを指導する。            ④学校周辺清掃活動を定着させ、生徒の関心を高め、参加を促す。</p>	<p>①90%以上の生徒が「コミュニケーション能力が上がった」と回答            ②昨年度より生徒の参加した行事が増加したか検証            ③90%以上の生徒が「食に関する命の営みを理解した」と回答            ④1回の平均参加率20%以上</p>	<p>自立のための公共心・規範意識やコミュニケーション能力が向上した。クリーンアップ作戦参加率向上により主体的な行動力が向上しつつある。            ①かわぐち若者サポートステーションとの連携により、SSTを発展することができた。            ②学校行事において、参加率ほぼ100%            ③「よく理解した」44%、「まあまあ理解した」36%            ④クリーンアップ作戦の参加率、平均30%</p>	A	<p>サポステとの連携を円滑に実施することができた。生徒のコミュニケーション能力向上やボランティア活動への積極的な参加ができるようになった。また、学校周辺清掃活動では、全日制と共同で開催することができた。今後は、外部機関の多様な人材と連携をさらに深めることで、公共心・規範意識を確立し、自立できる能力を育成することが課題である。</p>	平成30年3月3日	<p>外部と連携をし、教育力を高める取組みが増えていることは大変に素晴らしい。今後も連携を深め、生徒に学習の機会を広げてほしい。全日制と定時制が合同でボランティア活動を行うことは、お互いにプラスが多い。定時制の枠にとらわれずに、今後も様々な活動を行ってほしい。</p>
2	<p>・基礎学力の定着とさらなる学力の向上が本校の課題である。しかし、生徒個々の学力差も大きく、そのためにもさまざまな学習活動の工夫により多様な生徒への対応が望まれる現状にある。</p>	<p>・生徒個々への学習指導体制の充実と学校生活に自信や目標を持った生徒の育成を目指す。</p>	<p>①ティームティーチングの効率的な活用            ②学習サポーターの補習への活用            ③資格取得・就職、進学に対応した模試の実施            ④生徒に対する学習アンケートの実施            ⑤多様な文化を持つ生徒への対応のための推進員の活用</p>	<p>①各授業において個々に応じた工夫を実践            ②基礎学力定着テストによる定着度の検証            ③資格取得者数と進路決定率            ④90%以上の生徒が「授業にしっかり取り組んだ」と回答            ⑤多文化共生推進員との連携強化</p>	<p>組織的な学習指導体制の構築は、できつつある。            ①国語、数学、英語において、TTや拔出し授業を実施。            ②学習サポーターによる、夏季休業・冬季休業による補習の実施。            ③資格取得補習を始業前に実施。            ④「よく集中している」24%、「まあまあ集中している」60%            ⑤多文化共生推進員による始業前・夏季・冬季休業中補習及び授業補助指導。</p>	A	<p>TTや拔出し授業、タブレットを活用したICTによる授業の実施、協調学習等、組織的な授業を実施できている。しかし、基礎学力向上については、検討の必要があり、基礎学力補習の実施や学び直し、資格取得に向けた補習の取組み等、組織的な指導に改善の余地がある。また、多様な文化に対応した指導を充実させる必要がある。</p>		<p>資格取得のための補習ができていないことは、大変すばらしい。今後、定時制でも就職に係る資格取得が必要になるが、授業前の補習が定着し基礎学力や資格取得のための組織的な取組みが必要である。基礎学力にとどまらず、将来の力になる指導を願います。</p>
3	<p>・「進路の手引き」を今後の有効的な利用のために内容の改善・再検討が必要である。            さらに生徒の進学・就職支援を充実し進路意識の向上を図り、進路実現につなげることが今後の課題である。</p>	<p>・4年間を通して系統的なキャリア教育・進路行事等を組織的におこない、各種の学校行事との円滑で効率的な連携を目指す。</p>	<p>①進路の手引きを利用した効率的で効果的な進路指導の推進。            ②外部教育力を活用したキャリア教育の推進            ③生徒の長期休業中等での学校見学や企業説明会参加を推進            ④地元企業や県支援事業を利用した就労（アルバイト含む）を積極的に支援            ⑤生徒に対する進路に関するアンケートの実施</p>	<p>①進路の手引に則した学年ごとの指導計画の実施状況            ②生徒の進路決定率とアンケート結果            ③参加状況の調査            ④生徒の就労率65%            ⑤90%以上の生徒が「自分の進路について考えている」と回答</p>	<p>キャリア教育の充実において、外部教育力を活用し、進路意識の確立を図ることができた。            ①進路の手引きを基に、学年に応じた進路指導ができた。            ②サポステ及び就職支援アドバイザーと連携した進路指導の実施。            ③合同企業説明会等に、計5名が参加した            ④県支援事業「農業体験」5名参加。            ⑤将来どうなりたいか、考えを「持っている」33% 「なんとなく持っている」40%</p>	B	<p>サポステ等の外部教育力との連携により、キャリア教育の充実を図ることができた。結果、70%の生徒が将来の考えを持てるようになった。しかし、就職活動では、苦戦をしている。基礎学力を充実し、進路実現ができる能力を身に付けさせる必要がある。また、進路の手引きについて見直しをし、より生徒にとって使い易い進路の手引きへ発展する必要がある。</p>		<p>農業体験は、前回質問した通りとても良い取り組みである。様々な事を経験することが、成長の糧となる。進路選択などで役に立つことが多い。また、普通高校（特に定時制高校）でも、専門教育の一部を導入することで、職業選択の幅が広がるのではないかと。外部機関を利用したキャリア教育においては、様々な取組みにより発展していることが分かる。今後は、キャリア教育の充実は今後の定時制の課題である。</p>
4	<p>・保護者会への参加希望は多いが、実際の参加率はその半分程度である。今後保護者が参加しやすい時期や内容を検討していく工夫が必要である。また、中学校との連携を維持・強化することが課題である。</p>	<p>・学校HPを活用し、情報発信を積極的に行い、生徒保護者や中学校との連携体制を構築する。</p>	<p>①公開行事等において、保護者の参加を促し、日常の教育活動の理解への強化            ②長期休業等での中学校訪問を行い、中学校との連携体制を強化            ③保護者対象のアンケートを実施            ④学校HPの定期的な更新と内容の改善</p>	<p>①保護者対象の講演会等に前年度を上回る保護者が参加            ②授業公開における中学校関係者の来校者数と中学校訪問数            ③保護者会に「参加した」と「参加したい」の検証            ④更新回数と複数の学校視察の受入</p>	<p>保護者会への参加者数は増加傾向にある。本校の教育活動への理解が浸透しつつある。            ①各学期で保護者会や給食試食会を実施。講演会は全5回を実施した。            ②未来を拓く「学び」プロジェクトで、公開授業を実施。外部10名の参加者があった。            ③「保護者会に参加した」43%、「保護者会に参加したい」43%            ④学校HPは定期的な更新ができ、約9万件の閲覧があった。国立教育政策研究所等の視察を受け入れた。</p>	A	<p>学校HPの更新を、行事ごとに行ったことで、保護者や地域の方への情報発信を十分に行うことができ、本校の教育活動の理解をより一層深めることができた。しかし、保護者会への参加希望者がまだ少なく、今後は参加者を増やすことで、教育活動の理解と関心を高め、学校と家庭が連携できる教育を定着させることが必要である。</p>		<p>学校のHPが定期的に更新されており、最新の学校の日常の様子が分かる。これからの時代は、学校の情報発信は、紙で行うことも大事であるが、HPを利用した情報発信を活用した学校の様子の発信をすることは大切である。今後はQRコードを活用（学校案内やポスターなどに掲載）し、さらなる学校の情報発信を行ってほしい。</p>